

岩手の鉄道(ローカル線)が危ない

2022/12/04

DEEP ACID

目次

1. はじめに
2. 岩手の鉄道の概要
3. 東日本大震災、およびその他の自然災害
4. 利用者数
5. 収益
6. イベント列車
7. 対策
8. おわりに

1,はじめに

- 利用者数が少なくても、鉄道を維持すべき理由

血管は動脈、静脈だけでなく、体の隅々まで**毛細血管**があるから全身に栄養分が行き渡る。鉄道もまた、新幹線のような動脈だけでは不十分、ローカル線と言う毛細血管があって初めて健全な人流、物流のインフラとして機能する。

- 物流、人流の毛細血管
- 環境に優しい輸送

2.岩手の鉄道の概要(1)

- 運行主体
 - JR東日本
 - 第3セクター(IGRいわて銀河鉄道、三陸鉄道リアス線の2社)
 - 私鉄(岩手県は純粋な私鉄は現存しない、岩手県交通と岩手県北バスの2つのバス会社が私営)

2.岩手の鉄道の概要(2)

- 電化度
 - 東北本線
 - 「かつて東北本線だった」IGRいわて銀河鉄道
 - 「秋田新幹線と併用している」田沢湖線
だけが電化、他の路線は全て非電化。

2.岩手の鉄道の概要(3)

- 収益率

上記3路線以外の以下のローカル線は、全て**赤字路線**としてバス代行の降格の怖れがある。

- 山田線(盛岡・宮古、宮古・山田間は三陸鉄道に譲渡)
- 釜石線(花巻・釜石)
- 北上線(北上・横手(秋田県横手市))
- 花輪線(好摩・大館(秋田県大館市))
- 大船渡線(一ノ関・気仙沼(宮城県気仙沼市)：気仙沼から盛
までは既に**BRT**で運行)
- 八戸線(八戸(青森県八戸市)・久慈)

3.東日本大震災およびその他の自然災害(1)

- 津波被害から復興した三陸鉄道

久慈から盛まで**163km**は第三セクターとして最長の路線を無事復活(ただし経営は厳しい)。

- バス代行路線を持つ大船渡線

大船渡線気仙沼・盛間は被害が大きく、現在は**BRT(Bus Rapid Transit)**と言うバス路線になっている(車体はバスだが、区間の大部分が曾ての鉄路を活かした専用道路となっていて、鉄道駅ではプラットフォームで乗降する)。

3.東日本大震災及びその他の自然災害(2)

地震以外の自然災害

- 豪雪

北上線、花輪線など山深い区間が多い路線は、冬期の豪雪でダイヤが乱れる(半日くらい動かなくなる)ことがある。

- 台風

花輪線、奥羽本線、五能線が8月の台風の影響で現在もバス代行輸送が続いている。

4.利用者数

- **IGR**：510万人
- 三陸鉄道：51万人

5.収益

利用が少ない県内JR路線の収支と平均通過人員

線名	区間	年間収支 (円)	平均通過 人員(人)
大船渡線	一ノ関～気仙沼	▲15億7500万	754
釜石線	花巻～遠野	▲12億700万	897
	遠野～釜石	▲12億6900万	583
北上線	北上～ほっとゆだ	▲10億8700万	435
	ほっとゆだ～横手	▲5億9700万	132
八戸線	鮫～久慈	▲14億6000万	454
花輪線	好摩～荒屋新町	▲8億5500万	418
	荒屋新町～鹿角花輪	▲7億4900万	78
山田線	盛岡～上米内	▲1億9200万	358
	上米内～宮古	▲18億9500万	154

※2019年度のデータ。平均通過人員は、1日1^キ当たりの利用者。▲はマイナス

6. イベント列車

- JR東日本：SL銀河(釜石線)
- 大船渡線：ポケモントレイン
- 三陸鉄道：こたつ列車(冬期)

7.対策(1)

- マイカーの利用を控え、鉄道を利用する

職住が近い場合は自転車利用者も多い。しかし冬場は自転車利用は難しい。

そもそも鉄道便数が少ないため、職場自体が駅から遠方の企業が多い。駅からバス便を整備するなど、自家用車でなくても通勤できる環境を整えるべき。

- 乗合タクシーなどの小回りの効いた交通の整備

通勤以外でも食料の買い物ができない人を取り残さないこと。

7.対策(2)

- 自動車がなくとも暮らせる社会を

地方に行くと、交通手段がないと通勤しなくてもそもそも買い物ができない。そのため、高齢者でもハンドルを握らないと暮らせない状況になっている。

移動販売車を充実させるなど、交通の不便な集落でも生活に困らない環境は整えるべきである。

8.おわりに

- 人口減少は岩手に限らず、日本のほとんどの地域で、自然災害に関係なく起こっている。
- 社会インフラのコストも人口が減少すれば結果的に高くつくので、世代が入れ替われば、小さな集落は消滅し、一部の都市部に社会インフラコストをかける「選択と集中」論も進んでいる。
- その一方で、東京のようにこれ以上一極集中が進むのは、リスク分散や地方文化の消滅防止のためにも避けるべきである。
- 毛細血管をコスト増と見るのではなく、「機能」が地方に分散可能である環境を維持すべきである。